



[野菜部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

1. アスパラガスの有望品種、全雄系「ゼンユウガリバー」

[要約]

アスパラガス全雄系品種「ゼンユウガリバー」は、現行主力品種の「スーパーウェルカム」に比べ、総収量が同程度であり、市場出荷が可能な秀品・優品の割合が高く、収益の増加が見込まれる有望品種である。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 野菜・花研究室

[連絡先] 電話 086-955-0277

[分類] 情報

[背景・ねらい]

アスパラガスの県内主力品種である「スーパーウェルカム」は種苗の入手が困難となっており、代替品種の選定が急務となっている。そのため、全国的に栽培されつつある全雄系品種等の中から、本県での栽培に適し、収益性の高い品種を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 4～9月の総収量を比較すると、「ゼンユウガリバー」と「スーパーウェルカム」とはほぼ同量である（表1、表2）。
2. 重量規格別の収量割合を比較すると、「ゼンユウガリバー」と「スーパーウェルカム」とは各規格の割合がほぼ同じである（図1）。
3. 形状規格別の本数割合を比較すると、「ゼンユウガリバー」は「スーパーウェルカム」より、市場出荷が可能な秀品・優品の割合が高く、外品の割合が低い（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 新規作付けや改植時に「スーパーウェルカム」に代わる品種として普及が見込まれる。
2. 定植3年目までは茎枯病の発生が少なかったため、茎枯病耐病性の品種間差は不明である。
3. 斑点性病害が「スーパーウェルカム」と同程度に9月に発生することから、従来品種と同様に病害防除を適切に行う必要がある。
4. 本情報は農業研究所内露地圃場での定植3年目までの試験結果によるものである。
5. 本情報の調査結果はすべて1日1回収穫によるものである。



[具体的データ]

表1 定植2年目株の4～9月の総収量 (kg/10a)

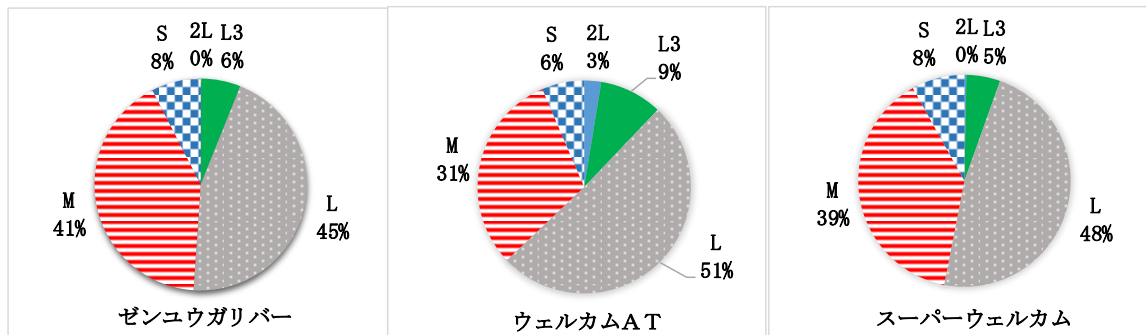
品 種	露地区(2018年)
ゼンユウガリバー	2,307
ウェルカムAT	2,002
PA050	2,065
カンティカス	1,598
パードス	2,368
ウェルカム	1,772
スーパーウェルカム	1,890

表2 定植2～3年目株の4～9月の総収量 (kg/10a)

品 種	定植2年目(2017年)		定植3年目(2018年)	
	トンネル区 ²	露地区 ³	トンネル区	露地区
ゼンユウガリバー	2,974	2,512	2,899	2,665
ウェルカムAT	3,053	2,908	2,339	2,292
スーパーウェルカム	2,937	2,599	2,889	2,535

²2月下旬～4月上中旬に畝を大型トンネルで覆い、晴天時裾上げ換気した

³上記トンネル処理なし



2L:50g以上、L3:35g以上50g未満、L:18g以上35g未満、M:10g以上18g未満、S:7g以上10g未満

図1 トンネル区の通年の重量規格別（S以上）の収量の割合（定植3年目:2018年）

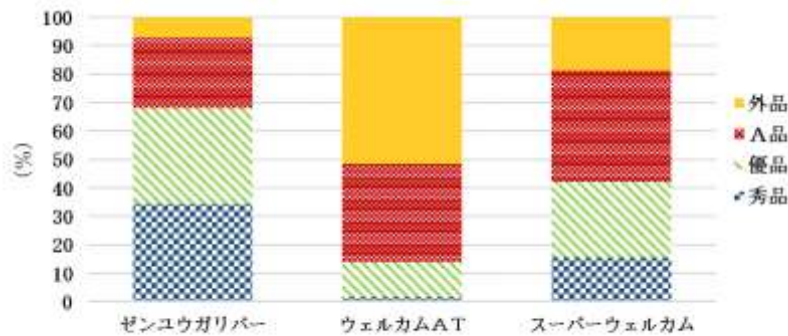


図2 トンネル区の形状別規格本数の割合(定植3年目:2018年)

注) 秀品・優品：市場出荷可能なもの

A品：直売所等で販売可能なもの

外品：販売不可なもの

[その他]

研究課題名：アスパラガスの優良品種選定と早期立茎による安定生産技術の開発

予算区分：県単

研究期間：2017～2021年度

研究担当者：岸本直樹